

「お茶でコロナが消える」奈良県立 医大論文の中身

たった1分で99%が消滅

連日、テレビや新聞は「医療崩壊」の危機を声高に叫んでいる。その一方で、多くの研究者がコロナをめぐる論文を発表。最新論文の中には、驚きの研究結果も報告されている。発売中の『週刊現代』が特集する。

ウイルスが感染力を失う

「茶は養生の仙薬なり」

鎌倉時代の禅僧・栄西が『喫茶養生記』に記したように、お茶は古くから万病に効く薬として重宝されてきた。

それから800年以上の時が流れたいま、お茶が新型コロナウイルスにも効果を発揮する可能性が浮上している。衝撃的な事実を明らかにしたのは、名門・奈良県立医科大学の矢野寿一教授率いる研究チームである。

このチームは、緑茶や紅茶、大和茶など、市販のお茶10銘柄に、新型コロナウイルスを混ぜる実験を行った。そのまま放置し、1分後、10分後、30分後に、感染力を持つウイルスがどれだけ残っているか検査するのだ。



Photo by iStock

まず実験で使われたのが「茶葉から淹れた紅茶」だ。コロナを混ぜた段階では、 1ml あたり 6×10^6 PFU（ウイルスを数える単位）の感染力があるウイルスが存在していた。

ウイルス混合からわずか1分、変化が起きた。感染力があるウイルスの量が、 $2 \cdot 25 \times 10^4$ PFUまで、なんと99%も減少したのだ。

減少分のウイルスは存在自体はしているものの、細胞に侵入し、感染する能力はすでにない。お茶に含まれる何らかの成分によって、感染力が失われる「不活性化」が起きたのである。

さらに紅茶にコロナを入れてから30分後には $2 \cdot 5 \times 10^2$ PFUまで減少した。99・975%と、ほとんどすべてのウイルスが人体に感染する力を失った。

効果があったのは紅茶だけではない。緑茶でも、商品によっては30分間で99%近いウイルスが不活性化された。

種類による差は見られるものの、お茶の効果によってコロナが不活性化さ

れることが明らかになった。この衝撃的な結果に、研究者は騒然とした。



2021.01.15 # 週刊現代 # 新型コロナウイルス

「お茶でコロナが消える」奈良県立医大論文の中身

たった1分で99%が消滅

週刊現代 プロフィール

だが、一筋縄ではいかないのが科学の世界である。たとえば「紅茶をよく飲むイギリスで、コロナが爆発的に感染拡大しているではないか」という反論もあがっている。

奈良県立医大の最新の研究結果を私たちはどう捉え、どう活かしていけばいいのか。

そもそも、なぜお茶でウイルスが不活性化したのか。東邦大学医学部名誉教授の東丸貴信氏が答える。

「お茶に含まれるカテキンの効果です。コロナの表面には、細胞に侵入する際に使うトゲ（スパイク）が付いており、カテキンはこのスパイクに付着して感染力を奪うのです。この事実は、インドのERA大学の実験でも明らかになっています」



カテキンは、お茶の渋みを感じさせる成分だ。実験結果では、市販の緑茶では商品ごとにウイルスを不活性化する力に差があった。この理由もカテキンで説明できる。

ペットボトルの裏面の成分表には、「カテキン量」という欄がある。『伊右衛門』（サントリー）は「約8～29mg（100ml当たり）」、『お〜いお茶 緑茶』（伊藤園）なら「約40mg（100ml当たり）」とある。

実験で使われたお茶の商品名は明かされていないが、カテキン量の違いが実験結果の差になったと推測できる。

では、カテキン量が多いお茶を多量に飲めば、コロナにかからないのか。残念ながら、話はそう単純ではない。

カテキンには副作用があるからだ。カナダでは、高濃度茶カテキンが原因と疑われる肝臓障害が報告されている。また、お茶にはカフェインも含まれるため、飲みすぎれば吐き気やめまいをもよおしてしまう。

さらに、体内でカテキンが分解されず、ウイルスを不活性化できないという保証もない。

NEXT ▶ 「お茶でうがい」が効く？

< 1 2 3 >



DAIHATSU
まずはネットで簡単
オンライン見積り
詳しくはこちら
TAFT



テーブルを使った茶道の
お稽古
普段着・手ぶらOKの茶道教室
正座が苦手な方も安心！テーブルを使った
茶道レッスン！普段着・手ぶら・初心者OK！
salon-tea.jp
開く

記事をツイート

記事をシェア

B! 記事をブックマーク



つくば市のマイホーム／売ったらいくら

イエウール

AIを自作してみよう。
プログラマー不要のAI作成

SONIX
高度な予測分析を自動的に実行



2021.01.15 # 週刊現代 # 新型コロナウイルス

「お茶でコロナが消える」奈良県立医大論文の中身

たった1分で99%が消滅

 週刊現代 [プロフィール](#)

「お茶でうがい」が効く？

試験管の中で起きていることを人の体内で再現するのは、至難の業だ。

とはいえ、ウイルスを不活性化するカテキンの力を活かす方法が、ひとつだけある。お茶を飲むのではなく、お茶でうがいをすればいいのだ。

「ウイルスは喉や口内の粘膜や鼻腔にくっつくのですが、すぐに細胞に入らず、付着したままになっていることがあります。この状態のコロナなら、お茶でうがいすることでカテキンの力により不活性化できるかもしれません」（前出・東丸氏）

カテキンは、熱いお湯のほうが多く浸出する。熱湯で淹れたお茶を冷ましてから、うがいのほうがオススメだ。



Photo by iStock



うがいといえば、吉村洋文大阪府知事が推奨したイソジンを常用している人もいるかもしれない。だが、お茶にはイソジンより明らかに優れている点もある。

イソジンを頻繁に使用していると、強力な殺菌効果によって喉の粘膜が傷つく。その結果、むしろウイルスが体内に侵入しやすくなってしまう。

しかしお茶であれば、この心配はいらない。苦いお茶を飲むのが苦手な人も、うがいくらいならできるはずだ。

さらに東丸教授は、「ウイルスを不活性化する力には期待できないが、水を飲むより緑茶や紅茶を飲んだほうがいい」という。

カテキンは、コロナに勝つための「もう一つの力」を持っているからだ。

「ずばり『抗酸化作用』です。コロナに感染すると、体内で炎症が起きて大量の活性酸素が発生します。これが血管や細胞を破壊し、重症化につながってしまう。カテキンは活性酸素の発生を抑え、ウイルスが体内で広がるのを抑える力を持っています」

さらに最新の研究では、カテキンは自然免疫を担うNK（ナチュラル・キラー）細胞を活性化することも判明している。お茶を飲むだけで、コロナの症状が出る前にウイルスを撃退できる可能性が高まるのだ。

奈良県立医大では、現在もお茶とコロナについての研究が続けられている。最新の研究結果をうまく活かしながら、賢くコロナと付き合っていきたい。

発売中の『週刊現代』ではこのほかにも、「医療崩壊のウソと現実 重症病床が少ない理由」「日本人が忘れてしまった『大人の考え方』」「企業ドキュメント 豊田章男社長が『教祖』になっちゃった」「藤圭子と高倉健がいた時代」などを特集している。

『週刊現代』2021年1月23日号より

週刊現代の最新情報は公式Twitter(@WeeklyGendai)で

